

## 2024/25 シーズンに向けたインフルエンザワクチン 接種に関する考え方とトピックス

- **2024/25 シーズンにおいてもインフルエンザワクチンの積極的な接種を強く推奨  
します**

2023/24 シーズン累積のインフルエンザ推計受診者数は約 1801.9 万人であり、2018/19 シーズン以降、最も多い推計受診者数でした<sup>1)</sup>。一方で、2023/24 (令和 5 年) シーズンはインフルエンザワクチン使用量が 2,432 万本 (供給量 3,135 万本) と 2010/11 (平成 22 年) シーズン以降最も少ない使用量となり<sup>2)</sup>、2024/25 シーズンはより積極的なインフルエンザワクチン接種が必要と考えられます。

世界的にも 2023/24 シーズンの成人におけるインフルエンザワクチン接種率は、米国で前シーズンと比較して 11%減<sup>3)</sup>、オーストラリアで 7%減<sup>4)</sup> となりましたが、ワクチン効果は米国においては全体で 33~49%<sup>3)</sup>、日本の小児でも約 50~60%<sup>5)</sup>、オーストラリアでは入院防止率は 68%<sup>4)</sup>、と比較的良好なデータが示されました。今シーズンも高齢者、小児、施設の入所者、介護者、そして医療従事者にはインフルエンザワクチンを接種していただきたいと考えています。

わが国では 2024/25 シーズンに向けて、

A/Victoria(ビクトリア) /4897/2022 (IVR-238) (H1N1)pdm09

A/California(カリフォルニア) /122/2022 (SAN-022) (H3N2)

B/Phuket (プーケット) /3073/2013 (山形系統)

B/Austria(オーストリア) /1359417/2021 (BVR-26) (ビクトリア系統)

の使用を決定しました<sup>2)</sup>。

なお、B/山形系統が世界的に検出されていない状況で、WHO は 3 価を推奨する方向を示し、米国では 2024/25 シーズンは 3 価ワクチンのみの使用となる見込みです<sup>6)</sup>。しかしながら、インフルエンザの B 型の流行系統は予想しにくい傾向があります。1990 年代は B/山形系統が猛威を振るい、B/ビクトリア系統は散発的にしか検出されませんでした。一方で 2000 年代になって B/ビクトリア系統が再び増加しています<sup>7)</sup>。まだ B/山形系統も散発的にはみられています<sup>8)</sup>。わが国でも来シーズン以降の 3 価への変更が議論される予定ですが<sup>9)</sup>、今シーズンは現行のワクチン接種をお願いしたいと考えています。

- **新規ワクチン (経鼻生ワクチン、高用量不活化ワクチン、mRNA ワクチンなど) への期待**

小児においては、わが国でも経鼻弱毒生インフルエンザワクチン (LAIV) (商品名フルミスト®点鼻薬) が、わが国でも 2024 年 9 月 26 日に発売されます。適応年齢につい

ては2歳から19歳未満で、接種回数は1回の3価ワクチンです<sup>10)</sup>。

また、高齢者においては、2023年12月に高用量インフルエンザワクチンの製造販売承認申請がなされています<sup>11)</sup>。

さらに海外ではmRNA型の新型コロナ・インフルエンザの混合ワクチンの治験がphase 3まで進んでいます<sup>12)</sup>。

#### ● 高病原性鳥インフルエンザの広がりに関する懸念

2024年には米国で高病原性鳥インフルエンザウイルス H5N1 型に罹患した乳牛や労働者が相次いで報告され、注意が必要です<sup>13)</sup>。その他にカンボジアで13例、2023年後半以降は中国とベトナムでさらなる症例が報告されるなど H5N1 型ウイルスのヒトへの感染が増え、ウイルスが新たな動物種に広がっている可能性があります<sup>14)</sup>。なお、2024年7月8日の厚生労働省審議会で、急性呼吸器感染症（ARI）を5類感染症とすることが議論され、今年度中に指定される予定ですので、インフルエンザ様疾患がより広く把握されることとなります<sup>15)</sup>。

#### ● 抗ウイルス薬の薬剤感受性

2023/24シーズンにはノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルへの感受性低下を示す二重変異株 A(H1N1)pdm09 NA/I223V+S247N が世界各国で散発的に発生していることが報告されました<sup>16,17)</sup>。但し比較的稀で、幸い、ザナミビル、ラニナミビル、ペラミビルなどのオセルタミビル以外のノイラミニダーゼ阻害薬や作用機序の異なるバロキサビル マルボキシールに対する感受性は維持されています。

#### ● 高齢者や重症化リスク因子を持つ方へは肺炎球菌ワクチンや新型コロナワクチン、RSV ワクチンの積極的な接種も強く推奨します。

高齢者やリスク因子を有する方にはインフルエンザ罹患後の続発性細菌性肺炎の予防も重要です。肺炎球菌が代表的な肺炎の原因菌であり、肺炎球菌ワクチンには23価莢膜多糖体ワクチン（PPSV23）と13価結合型ワクチン（PCV13）/15価結合型ワクチン（PCV15）の2種類がありましたが<sup>18,19)</sup>、20価結合型ワクチン（PCV20:商品名プレベナー20®）が2024年8月から販売開始となり、PCV13から切り替えとなります<sup>20)</sup>。PCV20は小児では2024年10月からは定期接種ワクチンとして位置づけられ、成人でも高齢者とハイリスク者で薬事承認されました。今後欧米同様の肺炎球菌ワクチン接種スケジュールが可能となります。新型コロナワクチンに関しては、2024年3月31日までの予防接種法に基づく特例臨時接種が終了し、4月1日からは定期接種 B類として a)65歳以上の者及び b)60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される者等が対象となりました<sup>21)</sup>。2024年10月からインフルエンザワクチン同様に定期接種が本格的に開始となります。さらに、高齢者では Respiratory

syncytial ウイルス (RSV) ワクチン接種も推奨されるようになりました<sup>22, 23)</sup>。それぞれ 60 歳以上の成人、もしくは 60 歳以上の成人および母子免疫による新生児及び乳児における RSV を原因とする下気道感染症の予防を対象として、2 種類の RSV ワクチンがわが国でも使用可能です。

高齢者では積極的にインフルエンザワクチンと新型コロナワクチンの同時接種も含めてご考慮ください。

#### 【文献】

- 1) 国立感染症研究所 インフルエンザ流行レベルマップ 2024 年 第 19 週 (5 月 6 日～5 月 12 日) 2024 年 5 月 15 日現在 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>
- 2) 第 1 回 厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの製造株について検討する小委員会 資料 2  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001247538.pdf>
- 3) CDC : Influenza (Flu) 2023-2024 season News & Spotlights  
<https://www.cdc.gov/flu/spotlights/2023-2024/index.htm>
- 4) Australian government: Australian Influenza Surveillance Report – 2023 End of Season Summary  
<https://www.health.gov.au/sites/default/files/2023-12/aisr-2023-national-influenza-season-summary.pdf>
- 5) Shinjoh M, Yaginuma M, Yamaguchi Y, Tamura K, Furuichi M, Tsumura Y, *et al.*: Effectiveness of inactivated influenza vaccine in children during the 2023/24 season: The first season after relaxation of intensive COVID-19 measures. *Vaccine*. 2024 ;42(23):126241. doi: 10.1016/j.vaccine.2024.126241.
- 6) CDC : Trivalent Influenza Vaccines Trivalent Influenza Vaccines.  
<https://www.cdc.gov/flu/prevent/trivalent.htm>
- 7) WHO: FluNet INFLUENZA LABORATORY SURVEILLANCE INFORMATION.  
<https://worldhealthorg.shinyapps.io/flunetchart/>
- 8) Caini S, Meijer A, Nunes MC, Henaff L, Zounon M, Boudewijns B, *et al.*: Probable extinction of influenza B/Yamagata and its public health implications: a systematic literature review and assessment of global surveillance databases. *Lancet Microbe*. 2024;5(8):100851. doi: 10.1016/S2666-5247(24)00066-1
- 9) 第 35 回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 資料

(令和6年9月2日)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_43169.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_43169.html)

- 10) 第一三共株式会社. フルミスト添付文書.  
[https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631370AR1026\\_1\\_02](https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631370AR1026_1_02)
- 11) サノフィ株式会社. 高用量 4 価インフルエンザワクチン (QIV-HD) 日本で製造販売承認申請. <https://www.sanofi.co.jp/ja/media-room/press-releases/2023/20231219>
- 12) Moderna Announces Positive Phase 3 Data for Combination Vaccine Against Influenza and COVID-19 June 10, 2024  
<https://investors.modernatx.com/news/news-details/2024/Moderna-Announces-Positive-Phase-3-Data-for-Combination-Vaccine-Against-Influenza-and-COVID-19/default.aspx>
- 13) CDC A(H5N1) Bird Flu Response Update July 26, 2024  
<https://www.cdc.gov/bird-flu/spotlights/h5n1-response-07262024.html>
- 14) FAO urges immediate action as new variants of avian influenza threaten Asia and the Pacific.  
<https://www.fao.org/newsroom/detail/fao-urges-immediate-action-as-new-variants-of-avian-influenza-threaten-asia-and-the-pacific/en>
- 15) 第86回厚生科学審議会感染症部会 2024(令和6)年7月8日 急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスに係る具体的な方針について  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001272561.pdf>
- 16) Leung RC, Ip JD, Chen LL, Chan WM, To KK. Global emergence of neuraminidase inhibitor-resistant influenza A(H1N1)pdm09 viruses with I223V and S247N mutations: implications for antiviral resistance monitoring. *Lancet Microbe*. 2024;5(7):627-8. doi: 10.1016/S2666-5247(24)00037-5.
- 17) Patel MC, Nguyen HT, Pascua PNQ, Gao R, Steel J, Kondor RJ, *et al*. Multicountry Spread of Influenza A(H1N1)pdm09 Viruses with Reduced Oseltamivir Inhibition, May 2023-February 2024. *Emerg Infect Dis*. 2024;30(7):1410-5. doi: 10.3201/eid3007.240480.
- 18) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会・合同委員会:「65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方(第5版)」(2024年9月6日)  
[https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content\\_id=56](https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=56)
- 19) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会:「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」(第2版)(2023年9月11日)  
<https://www.jrs.or.jp/activities/guidelines/statement/20210521172047.html>

- 20) ファイザー社. プレベナー20 水性懸濁注 添付文書  
[https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631140LC1023\\_1\\_03](https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631140LC1023_1_03)
- 21) 日本感染症学会ワクチン委員会 COVID-19 ワクチンに関する提言ーXBB.1.5 対応 mRNA ワクチンの任意接種について(第9版 2024 May 23)  
[https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content\\_id=43](https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=43)
- 22) GSK 社 アレックスビー 添付文書  
[https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631341NE1021\\_1\\_02/](https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631341NE1021_1_02/)
- 23) ファイザー社 アプリスボ筋注用 添付文書  
[https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631350AE1028\\_1\\_03/](https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631350AE1028_1_03/)

2024年9月18日

一般社団法人日本感染症学会 インフルエンザ委員会

青木洋介、川名明彦、國島広之、佐藤晶論、新庄正宜、関 雅文、田村大輔、永井英明、  
中野貴司、藤田次郎、三嶋廣繁、石田 直 (委員長)  
オブザーバー 廣津伸夫

利益相反自己申告

青木洋介はMSD(株)、塩野義製薬(株)、ファイザー(株)から講演料を受けている。

青木洋介は塩野義製薬(株)から奨学(奨励)寄附金を受けている。

國島広之はアステラス製薬(株)、MSD(株)、塩野義製薬(株)、ミヤリサン製薬(株)から講演料を受けている。

関雅文はMSD(株)、杏林製薬(株)、サノフィ(株)、塩野義製薬(株)、第一三共(株)、大正製薬(株)、大日本住友製薬(株)、ファイザー(株)、Meiji Seika ファルマ(株)から講演料を受けている。

田村大輔はアボット ダイアグノスティクス メディカル(株)、積水メディカル(株)から研究費を受けている。

永井英明はMSD(株)、グラクソ・スミスクライン(株)、塩野義製薬(株)から講演料を受けている。

中野貴司はアステラス製薬(株)、アストラゼネカ(株)、サノフィ(株)、塩野義製薬(株)、第一三共(株)、田辺三菱製薬(株)、デンカ(株)、(一財)阪大微生物病研究会、Meiji Seika ファルマ(株)から講演料を受けている。

中野貴司は富士フィルム富山化学(株)より奨学(奨励)寄附金を受けている。

藤田次郎は杏林製薬（株）、ギリアド・サイエンシズ（株）、塩野義製薬（株）、第一三共（株）、日本ベーリンガーインゲルハイム（株）、ファイザー（株）から講演料を受けている。

藤田次郎は大塚製薬（株）より奨学（奨励）寄附金を受けている。

三嶋廣繁はアステラス製薬（株）、MSD（株）、杏林製薬（株）、ギリアド・サイエンシズ（株）、グラクソ・スミスクライン（株）、興和（株）、サノフィ（株）、サラヤ（株）、塩野義製薬（株）、住友ファーマ（株）、第一三共（株）、大日本住友製薬（株）、（株）ツムラ、日本ベクトン・ディッキンソン（株）、ファイザー（株）、ファイザーR&D 合同会社、（株）フコク、富士フイルム富山化学（株）、ミヤリサン製薬（株）、Meiji Seika ファルマ（株）、より講演料を受けている。

三嶋廣繁はあすか製薬（株）、アボットダイアグノスティクスメディカル（株）、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス（株）、杏林製薬（株）、サラヤ（株）、東ソー（株）、Pfizer Inc.、ファイザー（株）、（株）フコク、ブルカージャパン（株）、ミヤリサン製薬（株）、Meiji Seika ファルマ（株）、ロシュ・ダイアグノスティクス（株）、より研究費を受けている。

三嶋廣繁は旭化成ファーマ（株）、塩野義製薬（株）、住友ファーマ（株）、第一三共（株）、大日本住友製薬（株）、（株）テックインターナショナル、ニプロ（株）、（株）フコク、富士フイルム富山化学（株）、（株）モリイより奨学（奨励）寄附金を受けている。

石田直はアストラゼネカ（株）、杏林製薬（株）、塩野義製薬（株）から講演料を受けている。

廣津伸夫は塩野義製薬（株）より講演料を受けている。

川名明彦、佐藤晶論、新庄正宜については申告すべきものなし。